

学校コード F126210107469  
注3

設置年度 令和 5年度  
計画の区分： 学部の設置  
注1



注2  
福知山公立大学大学 情報学部 情報学科

## 【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

公立大学法人福知山公立大学  
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	学務・学生支援グループ
職名・氏名	グループマネージャー <small>ウチダクレホ</small> 内田晩穂
電話番号 (夜間)	0773-24-7100
e-mail	junbishitsu@fukuchiyama.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 情報学部

<情報学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	30
7. その他全般的事項	32

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

公立大学法人福知山公立大学

## (2) 大学名

福知山公立大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒620-0886  
京都府福知山市字堀3370

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イグチ カズキ) 井口 和起 (平成28年4月)	(カワゾエ シンスケ) 川添 信介 (令和4年4月)	(4) 任期満了による退任により、令和4年4月1日より新理事長が就任
学長	(イグチ カズキ) 井口 和起 (平成28年4月)	(カワゾエ シンスケ) 川添 信介 (令和4年4月)	(4) 任期満了による退任により、令和4年4月1日より新学長が就任
学部長	(ニシダ トヨアキ) 西田 豊明 (令和2年4月)	(イケノ ヒデトシ) 池野 英利 (令和5年4月)	(5) 執行部再編により、令和5年4月1日より新学部長が就任
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)  
令和5年度に報告する内容 → (5)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
情報学部 情報学科 学士（情報学）	工学関係  経済学関係 社会学・社会福祉学関係	4 年	100 人	2年次 0 人 3年次 2 人 4年次 0 人	404 人		(令和4年度) 令和4年4月より編入学定員を0人⇒2人に変更

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	100人 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	100人 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	100人 ( 2 ) [ - ]	( - ) [ - ]	100人 ( 2 ) [ - ]	( - ) [ - ]	1.05倍	1.05倍	1.02倍	1.02倍	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	233 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	290 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	427 ( 4 ) [ - ]	( - ) [ - ]	344 ( 5 ) [ - ]	( - ) [ - ]					
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	177 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	228 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	311 ( 4 ) [ - ]	( - ) [ - ]	246 ( 3 ) [ - ]	( - ) [ - ]					
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	123 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	119 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	121 ( 1 ) [ - ]	( - ) [ - ]	127 ( 2 ) [ - ]	( - ) [ - ]					
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	108 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	103 ( - ) [ - ]	( - ) [ - ]	106 ( 1 ) [ - ]	( - ) [ - ]	105 ( 1 ) [ - ]	( - ) [ - ]					
入学定員超過率 B/A					1.08		1.03		1.06		1.05						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、( ( ) )書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	108 [-] (-)	[ ] ( )	102 [-] (-)	[ ] ( )	106 [-] (-)	[ ] ( )	105 [-] ( )	[ ] ( )	(令和3年度) ・2年次に他学部から転入1人を含む。 (令和4年度) ・3年次に他学部への転出1人。 (令和5年度) ・2年次に他学部への転出1人。
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	108 [-] (-)	[ ] ( )	100 [-] (-)	[ ] ( )	105 [-] (-)	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	107 [-] (-)	[ ] ( )	100 [-] (-)	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	105 [-] (-)	[ ] ( )	
計	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	108 [-] (-)	[ ] ( )	210 [-] (-)	[ ] ( )	313 [-] (-)	[ ] ( )	415 [-] (-)	[ ] ( )	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	108人	1人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	就学意欲の低下(1人)
令和3年度	210人	4人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	他の教育機関への転学(1人)
			令和3年度	3人	0人	他大学への入学(1人。2021年4月異動)、 就学意欲の低下(1人)、その他(1人)
令和4年度	313人	3人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2人	0人	他大学への入学(1人)、その他(1人)
			令和3年度	1人	0人	他大学への入学(1人)
			令和4年度	人	人	
令和5年度	415人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		8人		8人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{108} = \boxed{0.92} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{210} = \boxed{1.9} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{313} = \boxed{0.95} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{415} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<情報学部 情報学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目群	English I	1前	1								2	
	English II	1後	1								2	
	English III	2前	1								2	
	English IV	2後	1								2	
	TOEIC I	3前		1							1	
	TOEIC II	3後		1							1	
	中国語 I	1前		1							2	
	中国語 II	1後		1							2	
	中国語 III	2前		1							1	
	中国語 IV	2後		1							1	
	異文化コミュニケーション	1後		1							1	
	小計 (11科目)	—	—	4	7	0	0	0	0	0	0	6
	人文系	哲学	1後		2							1
		論理学	2後		2							1
心理学		2前		2							1	
歴史学		1前		2							1	
地理学		1後		2							1	
教育学		1前		2							1	
文化人類学		1後		2							1	
多文化共生論		1前		2							1	
小計 (8科目)		—	—	0	16	0	0	0	0	0	0	8
社会系	法学概論	1後		2							1	
	日本国憲法	1前		2							1	
	民法	2前		2							1	
	商法	2後		2							1	
	人権論	1前		2							1	
	経営学入門	1前		2							1	
	経済学入門	1後		2		1					1	
	国際関係論	1後		2							1	
小計 (8科目)	—	—	0	16	0	1	0	0	0	0	4	
自然系	数学基礎 I *	1前		2			1					
	数学基礎 II *	1後		2			1					
	線形代数基礎 *	1前		2		1						
	微分積分基礎 *	1前		2		1						
	線形代数 *	2後		2		1						
	微分積分 *	2後		2		1						
	多変量解析 *	2前		2		1	1					
	線形計画法 *	2前		2			1					
	生物学	1前		2							1	
	健康学	2前		2							1	
	環境学	1後		2							1	
	栄養学	1後		2							1	
	体育実技 I	1前		1							1	
	体育実技 II	1後		1							1	
小計 (14科目)	—	—	0	26	0	1	2	1	0	0	4	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目群	English I	1前	1								2	
	English II	1後	1								2	
	English III	2前	1								3	
	English IV	2後	1								3	
	TOEIC I	3前		1							1	
	TOEIC II	3後		1							1	
	中国語 I	1前		1							3	
	中国語 II	1後		1							3	
	中国語 III	2前		1							1	
	中国語 IV	2後		1							1	
	異文化コミュニケーション	1後		1							1	
	小計 (11科目)	—	—	4	7	0	0	0	0	0	0	8
	人文系	哲学	1後		2							1
		論理学	2後		2							1
心理学		2前		2							1	
歴史学		1前		2							1	
地理学		1後		2							1	
教育学		1前		2							1	
文化人類学		1後		2							1	
多文化共生論		1前		2							1	
小計 (8科目)		—	—	0	16	0	0	0	0	0	0	8
社会系	法学概論	1前		2							1	
	日本国憲法	1前		2							1	
	民法	2後		2							1	
	商法	2後		2							1	
	人権論	1後		2							1	
	経営学入門	1前		2							1	
	経済学入門	1後		2		1					1	
	国際関係論	1後		2							1	
小計 (8科目)	—	—	0	16	0	1	0	0	0	0	5	
自然系	数学基礎 I *	1前		2				1				
	数学基礎 II *	1後		2				1				
	線形代数基礎 *	1前		2		1						
	微分積分基礎 *	1前		2		1						
	線形代数 *	2後		2		1						
	微分積分 *	2後		2		1						
	多変量解析 *	2前		2		1	1					
	線形計画法 *	2前		2			1					
	生物学	1前		2							1	
	健康学	2後		2							1	
	環境学	1前		2							2	
	栄養学	1後		2							1	
	体育実技 I	1前		1							1	
	体育実技 II	1後		1							1	
小計 (14科目)	—	—	0	26	0	0	2	1	0	0	7	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2								1
		地域情報学 I	1前	2		1						
		地域情報学 II	1後	2		1						
		行政学入門	1後	2								1
		地域資源論	1前	2								1
		観光総論	2前	2								1
		地域ベンチャー育成論	2後	2								1
		地域産業論	2前	2								1
		地域防災論	2後	2								1
		観光情報学	3後	2			1					
		地域福祉論	3後	2								2
		社会保障論	1後	2								2
	持続可能な社会論	2前	2								1	
	社会福祉論	2前	2								1	
	社会調査論	2前	2								1	
	統計学	1前	2			1						
	情報リテラシー	1後	2				1					
	データサイエンス入門	1前	2				1					
	経営情報システム論	2後	2								1	
	I T 産業論	3前	2								1	
	知的財産論	3前	2								1	
	金融論	3前	2			1						
小計 (22科目)	—	4	40	0	4	2	0	0	0	0	13	
専門教育科目	PBL	I T 実習 I	1前	1			3	1				
		I T 実習 II	1後	1				3	1			
		I T 実習 III	2前	1			3	1	1			
		I T 実習 IV	2後	1			1	1	2			
		地域情報PBL入門	1	2			7	6	4			
		地域情報PBL基礎	2	2			7	6	4			
		地域情報PBL	3	4			7	6	4			
		地域情報プロジェクト	4	8			7	6	4			
		インターンシップ実習 I	3	1			1					
		インターンシップ実習 II	3	1			1					
	小計 (10科目)	—	20	2	0	7	6	4	0	0	—	
	情報専門基礎	コンピュータプログラミング I	1前	2			1		1			
		コンピュータプログラミング II	1後	2			1		1			
		インターネット	1前	2					1			
		情報学アカデミックスキル	2後	1			1					
		科学技術コミュニケーション	3後	1			1					
	小計 (5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	—	
	データサイエンスストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2			1				
			オープンデータ技術	1・2後	2			1				
			データ理解	1・2前	2				1			
			データマーケティング	1・2後	2							1
		基盤系	データ解析ツール	2・3後	2			1	1			
基礎データ解析			2・3後	2			1	1				
統計的モデルを用いたシミュレーション			2・3前	2				1				
データマイニング			3・4前	2			1					
理論系		統計解析	3・4後	2				1				
		品質管理	3・4前	2					1			
		統計データモデリング	3・4後	2				1				
		データ分析と意思決定	3・4後	2			1					
小計 (12科目)	—	0	24	0	4	2	1	0	0	1		

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2								1
		地域情報学 I	1前	2			1					
		地域情報学 II	1後	2			1					
		行政学入門	1後	2								1
		地域資源論	1前	2								1
		観光総論	2前	2								1
		地域ベンチャー育成論	2後	2								1
		地域産業論	2後	2								1
		地域防災論	2後	2								2
		観光情報学	3後	2					1			
		地域福祉論	3前	2								1
		社会保障論	1後	2								1
	持続可能な社会論	2前	2								1	
	社会福祉論	2前	2								1	
	社会調査論	2前	2								1	
	統計学	1前	2					1				
	情報リテラシー	1前	2						1			
	データサイエンス入門	1前	2						1			
	経営情報システム論	2後	2								1	
	I T 産業論	3前	2								1	
	知的財産論	3前	2								1	
	金融論	3前	2						1			
小計 (22科目)	—	4	40	0	5	1	0	0	0	0	18	
専門教育科目	PBL	I T 実習 I	1前	1				3	1			
		I T 実習 II	1後	1					1	2	1	
		I T 実習 III	2前	1					3	1	1	
		I T 実習 IV	2後	1					1	1	2	
		地域情報PBL入門	1	2					8	5	4	
		地域情報PBL基礎	2	2					8	5	4	
		地域情報PBL	3	4					8	5	4	
		地域情報プロジェクト	4	8					8	5	4	
		インターンシップ実習 I	3	1					1			
		インターンシップ実習 II	3	1					1			
	小計 (10科目)	—	20	2	0	8	5	4	0	0	—	
	情報専門基礎	コンピュータプログラミング I	1前	2					1		1	
		コンピュータプログラミング II	1後	2					1		1	
		インターネット	1前	2							1	
		情報学アカデミックスキル	2後	1					1			
		科学技術コミュニケーション	3後	1					1			
	小計 (5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	—	
	データサイエンスストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2				1			
			オープンデータ技術	1・2後	2					1		
			データ理解	1・2前	2						1	
			データマーケティング	1・2後	2							1
		基盤系	データ解析ツール	2・3後	2					1		
基礎データ解析			2・3後	2						1		
統計的モデルを用いたシミュレーション			2・3前	2					1			
データマイニング			3・4前	2								
理論系		統計解析	3・4後	2					1			
		品質管理	3・4前	2						1		
		統計データモデリング	3・4後	2						1		
		データ分析と意思決定	3・4後	2						1		
小計 (12科目)	—	0	24	0	5	1	1	0	0	1		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1						
			情報ネットワーク	1・2後	2		1						
			組込みシステム	2・3前	2		1						
		基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2		1						
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2		1						
			データベースシステム	1・2後	2		1						
			オペレーティングシステム	1・2後	2			1				1	
			分散システム	2・3後	2			1					
			プログラミング言語処理系	2・3後	2								1
	理論系	信号情報処理	3・4前	2		1	1						
		数値解析	3・4後	2				1					
		アルゴリズム論	3・4後	2		1							
		グラフ理論	3・4前	2				1				1	
		論理設計	3・4前	2			1						
		計算理論	3・4後	2		1							
		情報符号理論	3・4後	2		1							
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	3	3	0	0	1		
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1						
			IoT	1・2後	2		1						
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1						
			メディア情報学	1・2後	2		1						1
		基盤系	ゲーム情報学	1・2後	2				1				
			情報システム	2・3後	2		1						
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1						
理論系		機械学習システム	2・3前	2		1							
		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1		1					
		画像情報処理	3・4前	2		1							
		音情報処理	3・4後	2			1						
		自然言語処理	3・4後	2		1							
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	1			
合計(118科目)			—	34	189	0	8	6	4	0	0	33	
卒業要件及び履修方法													
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。													

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1					
			情報ネットワーク	1・2後	2		1					
			組込みシステム	2・3前	2		1					
		基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2		1					
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2		1					
			データベースシステム	1・2後	2		1					
			オペレーティングシステム	1・2後	2			1				
			分散システム	2・3後	2			1				
			プログラミング言語処理系	2・3後	2							
	理論系	信号情報処理	3・4前	2		1						
		数値解析	3・4後	2				1				
		アルゴリズム論	3・4後	2		1						
		グラフ理論	3・4前	2				1				
		論理設計	3・4前	2			1					
		計算理論	3・4後	2		1						
		情報符号理論	3・4後	2		1						
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	2	3	0	0	1	
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1					
			IoT	1・2後	2		1					
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1					
			メディア情報学	1・2後	2		1					
		基盤系	ゲーム情報学	1・2後	2				1			
			情報システム	2・3後	2		1					
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1					
理論系		機械学習システム	2・3前	2		1						
		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1		1				
		画像情報処理	3・4前	2		1						
		音情報処理	3・4後	2			1					
		自然言語処理	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	0		
合計(118科目)			—	34	189	0	9	5	4	0	0	34
卒業要件及び履修方法												
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語科目群	English I	1前	1								2
	English II	1後	1								2
	English III	2前	1								3
	English IV	2後	1								3
	TOEIC I	3前		1							1
	TOEIC II	3後		1							1
	中国語 I	1前		1							3
	中国語 II	1後		1							3
	中国語 III	2前		1							1
	中国語 IV	2後		1							1
	異文化コミュニケーション	1前		1							1
小計 (11科目)	—	—	4	7	0	0	0	0	0	0	7
人文系	哲学	1後		2							1
	論理学	2後		2							1
	心理学	2前		2							1
	歴史学	1前		2							1
	地理学	1後		2							1
	教育学	1前		2							1
	文化人類学	1前		2							1
	多文化共生論	1前		2							1
	小計 (8科目)	—	—	0	16	0	0	0	0	0	0
社会系	法学概論 (未開講)	1後		2							
	日本国憲法	1後		2							1
	民法	2後		2							1
	商法 (未開講)	2後		2							
	人権論	1前		2							1
	経営学入門	1前		2							1
	経済学入門	1後		2		1					
	国際関係論	1後		2							1
小計 (8科目)	—	—	0	16	0	1	0	0	0	0	4
自然系	数学基礎 I *	1前		2				1			
	数学基礎 II *	1後		2				1			
	線形代数基礎 *	1前		2		1					
	微分積分基礎 *	1前		2		1					
	線形代数 *	2後		2		1					
	微分積分 *	2後		2		1					
	多変量解析 *	2前		2		1					
	線形計画法 *	2前		2			1				
	生物学	1前		2							1
	健康学	2前		2							1
	環境学	1後		2							1
	栄養学	1後		2							1
	体育実技 I	1前		1							1
	体育実技 II (未開講)	1後		1							1
小計 (14科目)	—	—	0	26	0	0	2	1	0	0	4

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語科目群	English I	1前	1								2
	English II	1後	1								2
	English III	2前	1								2
	English IV	2後	1								2
	TOEIC I	3前		1							1
	TOEIC II	3後		1							1
	中国語 I	1前		1							2
	中国語 II	1後		1							2
	中国語 III	2前		1							1
	中国語 IV	2後		1							1
	異文化コミュニケーション	1後		1							1
小計 (11科目)	—	—	4	7	0	0	0	0	0	0	7
人文系	哲学	1後		2							1
	論理学	2後		2							1
	心理学	2前		2							1
	歴史学	1前		2							1
	地理学	1後		2							1
	教育学	1前		2							1
	文化人類学	1前		2							1
	多文化共生論	1前		2							1
	小計 (8科目)	—	—	0	16	0	0	0	0	0	0
社会系	法学概論	1後		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	民法	2前		2							1
	商法	2後		2							1
	人権論	1前		2							1
	経営学入門	1前		2							1
	経済学入門	1後		2		1					
	国際関係論	1後		2							1
小計 (8科目)	—	—	0	16	0	1	0	0	0	0	4
自然系	数学基礎 I *	1前		2				1			
	数学基礎 II *	1後		2				1			
	線形代数基礎 *	1前		2		1					
	微分積分基礎 *	1前		2		1					
	線形代数 *	2後		2		1					
	微分積分 *	2後		2		1					
	多変量解析 *	2前		2		1					
	線形計画法 *	2前		2			1				
	生物学	1前		2							1
	健康学	2前		2							1
	環境学	1後		2							1
	栄養学	1後		2							1
	体育実技 I	1前		1							1
	体育実技 II	1後		1							1
小計 (14科目)	—	—	0	26	0	0	2	1	0	0	4

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2								1
		地域情報学Ⅰ	1前	2		1						
		地域情報学Ⅱ	1後	2		1						
		行政学入門	1後	2								1
		地域資源論	1前	2								1
		観光総論	2前	2								1
		地域ベンチャー育成論	2前	2								1
		地域産業論	2後	2								1
		地域防災論	2後	2								1
		観光情報学	3後	2			1					
		地域福祉論	3前	2								1
		小計(22科目)	—	4	40	0	5	1	0	0	0	0
	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1			3	1				
		IT実習Ⅱ	1後	1			1	2	1			
		IT実習Ⅲ	2前	1			3	1	1			
		IT実習Ⅳ	2後	1			1	1	2			
		地域情報PBL入門	1	2			8	5	4			
		地域情報PBL基礎	2	2			8	5	4			
		地域情報PBL	3	4			8	5	4			
		地域情報プロジェクト	4	8			8	5	4			
		インターンシップ実習Ⅰ	3	1			1					
		インターンシップ実習Ⅱ	3	1			1					
小計(10科目)	—	20	2	0	8	5	4	0	0	0	—	
情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			1		1				
	コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			1		1				
	インターネット	1前	2					1				
	情報学アカデミックスキル	2後	1			1						
	科学技術コミュニケーション	3後	1			1						
小計(5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	0	—	
データサイエンスストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2		1						
		オープンデータ技術	1・2後	2		1						
		データ理解	1・2前	2			1					
		データマーケティング	1・2後	2							1	
	基盤系	データ解析ツール	2・3後	2		1						
		基礎データ解析	2・3後	2			1					
		統計的モデルを用いたシミュレーション	2・3前	2		1						
		データマイニング	3・4前	2		1						
	理論系	統計解析	3・4後	2		1						
		品質管理	3・4前	2				1				
		統計データモデリング	3・4後	2		1						
		データ分析と意思決定	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	5	1	1	0	0	0	1	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2								1
		地域情報学Ⅰ	1前	2		1						
		地域情報学Ⅱ	1後	2		1						
		行政学入門	1後	2								1
		地域資源論	1前	2								1
		観光総論	2前	2								1
		地域ベンチャー育成論	2前	2								1
		地域産業論	2後	2								1
		地域防災論	2後	2								1
		観光情報学	3後	2			1					
		地域福祉論	3前	2								2
		小計(22科目)	—	4	40	0	4	2	0	0	0	0
	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1			3	1				
		IT実習Ⅱ	1後	1			1	2	1			
		IT実習Ⅲ	2前	1			3	1	1			
		IT実習Ⅳ	2後	1			1	1	2			
		地域情報PBL入門	1	2			7	6	4			
		地域情報PBL基礎	2	2			7	6	4			
		地域情報PBL	3	4			7	6	4			
		地域情報プロジェクト	4	8			7	6	4			
		インターンシップ実習Ⅰ	3	1			1					
		インターンシップ実習Ⅱ	3	1			1					
小計(10科目)	—	20	2	0	7	6	4	0	0	0	—	
情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			1		1				
	コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			1		1				
	インターネット	1前	2					1				
	情報学アカデミックスキル	2後	1			1						
	科学技術コミュニケーション	3後	1			1						
小計(5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	0	—	
データサイエンスストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2		1						
		オープンデータ技術	1・2後	2		1						
		データ理解	1・2前	2			1					
		データマーケティング	1・2後	2							1	
	基盤系	データ解析ツール	2・3後	2		1						
		基礎データ解析	2・3後	2			1					
		統計的モデルを用いたシミュレーション	2・3前	2		1						
		データマイニング	3・4前	2		1						
	理論系	統計解析	3・4後	2		1						
		品質管理	3・4前	2				1				
		統計データモデリング	3・4後	2		1						
		データ分析と意思決定	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	1	0	0	0	1	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1						
			情報ネットワーク	1・2後	2		1						
			組込みシステム	2・3前	2		1						
		基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2		1						
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2		1						
			データベースシステム	1・2後	2		1						
			オペレーティングシステム	1・2後	2			1					
			分散システム	2・3後	2			1					
			プログラミング言語処理系	2・3後	2							1	
		理論系	信号情報処理	3・4前	2		1						
			数値解析	3・4後	2			1					
			アルゴリズム論	3・4後	2		1						
	グラフ理論		3・4前	2			1						
	論理設計		3・4前	2			1						
	計算理論		3・4後	2		1							
	情報符号理論	3・4後	2		1								
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	2	3	0	0	1		
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1						
			IoT	1・2後	2		1						
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1						
			メディア情報学	1・2後	2		1						
		基盤系	ゲーム情報学	1・2後	2			1					
			情報システム	2・3後	2		1						
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1						
機械学習システム			2・3前	2		1							
理論系		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1		1					
		画像情報処理	3・4前	2		1							
		音情報処理	3・4後	2		1							
		自然言語処理	3・4後	2		1							
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	0			
合計(118科目)			—	34	189	0	9	5	4	0	0	32	
卒業要件及び履修方法													
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。													

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1					
			情報ネットワーク	1・2後	2		1					
			組込みシステム	2・3前	2		1					
		基盤系	情報セキュリティ (未開講)	2・3前	2		1					
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2		1					
			データベースシステム (未開講)	1・2後	2		1					
			オペレーティングシステム	1・2後	2			1				
			分散システム	2・3後	2			1				
			プログラミング言語処理系	2・3後	2							1
		理論系	信号情報処理	3・4前	2		1	1				
			数値解析	3・4後	2			1				
			アルゴリズム論	3・4後	2		1					
	グラフ理論		3・4前	2			1					
	論理設計		3・4前	2			1					
	計算理論		3・4後	2		1						
	情報符号理論	3・4後	2		1							
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	3	3	0	0	1	
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1					
			IoT	1・2後	2		1					
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1					
			メディア情報学	1・2後	2		1					
		基盤系	ゲーム情報学	1・2後	2			1				
			情報システム	2・3後	2		1					
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1					
機械学習システム			2・3前	2		1						
理論系		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1		1				
		画像情報処理	3・4前	2		1						
		音情報処理	3・4後	2		1						
		自然言語処理	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	0		
合計(118科目)			—	34	189	0	8	6	4	0	0	33
卒業要件及び履修方法												
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。												

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 教育 科目	外国語科目群	English I	1前	1								2
		English II	1後	1								2
		English III	2前	1								2
		English IV	2後	1								2
		TOEIC I	3前		1							1
		TOEIC II	3後		1							1
		中国語 I	1前		1							2
		中国語 II	1後		1							2
		中国語 III	2前		1							1
		中国語 IV	2後		1							1
		異文化コミュニケーション	1後		1							1
	小計 (11科目)	—	4	7	0	0	0	0	0	0	0	6
	人文系	哲学	1後		2							1
		論理学	2後		2							1
		心理学	2前		2							1
		歴史学	1前		2							1
		地理学	1後		2							1
		教育学	1前		2							1
		文化人類学	1前		2							1
		多文化共生論	1前		2							1
		小計 (8科目)	—	0	16	0	0	0	0	0	0	0
	社会系	法学概論	1後		2							1
		日本国憲法	1前		2							1
		民法	2前		2							1
		商法	2後		2							1
		人権論	1前		2							1
		経営学入門	1前		2							1
		経済学入門	1後		2		1					
		国際関係論	1後		2							1
		小計 (8科目)	—	0	16	0	1	0	0	0	0	0
	自然系	数学基礎 I *	1前		2				1			
		数学基礎 II *	1後		2				1			
		線形代数基礎 *	1前		2			1				
		微分積分基礎 *	1前		2			1				
		線形代数 *	2後		2			1				
		微分積分 *	2後		2			1				
		多変量解析 *	2前		2		1	1				
		線形計画法 *	2前		2				1			
		生物学	1前		2							1
		健康学	2前		2							1
		環境学	1後		2							1
		栄養学	1後		2							1
		体育実技 I	1前		1							1
		体育実技 II	1後		1							1
小計 (14科目)	—	0	26	0	1	2	1	0	0	0	4	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2								1
		地域情報学Ⅰ	1前	2		1						
		地域情報学Ⅱ	1後	2		1						
		行政学入門	1後	2								1
		地域資源論	1前	2								1
		観光総論	2前	2								1
		地域ベンチャー育成論	2後	2								1
		地域産業論	2前	2								1
		地域防災論	2後	2								1
		観光情報学	3後	2		1						
		地域福祉論	3後	2								2
	全学共通科目群	社会保障論	1後	2								1
		持続可能な社会論	2前	2								1
		社会福祉論	2前	2								1
		社会調査論	2前	2								1
		統計学	1前	2		1						
		情報リテラシー	1後	2			1					
		データサイエンス入門	1前	2			1					
		経営情報システム論	2後	2								1
		IT産業論	3前	2								1
		知的財産論	3前	2								1
		金融論	3前	2		1						
小計(22科目)	—	4	40	0	4	2	0	0	0	13		
専門教育科目	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1		2	1					1
		IT実習Ⅱ	1後	1			3	1				
		IT実習Ⅲ	2前	1		3	1	1				
		IT実習Ⅳ	2後	1		1	1	2				
		地域情報PBL入門	1	2		6	6	4				1
		地域情報PBL基礎	2	2		7	6	4				
		地域情報PBL	3	4		7	6	4				
		地域情報プロジェクト	4	8		7	6	4				
		インターンシップ実習Ⅰ	3	1		1						
		インターンシップ実習Ⅱ	3	1		1						
	小計(10科目)	—	20	2	0	6	6	4	0	0	—	
	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			1		1			
		コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			1		1			
		インターネット	1前	2					1			
		情報学アカデミックスキル	2後	1			1					
		科学技術コミュニケーション	3後	1			1					
	小計(5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	—	
	データサイエンスストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2		1					
			オープンデータ技術	1・2後	2		1					
			データ理解	1・2前	2			1				
			データマーケティング	1・2後	2							1
		基盤系	データ解析ツール	2・3後	2		1	1				
基礎データ解析			2・3後	2		1	1					
統計的モデルを用いたシミュレーション			2・3前	2			1					
データマイニング			3・4前	2		1						
理論系		統計解析	3・4後	2			1					
		品質管理	3・4前	2				1				
		統計データモデリング	3・4後	2			1					
		データ分析と意思決定	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	1	0	0	1		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1					
			情報ネットワーク	1・2後	2		1					
			組込みシステム	2・3前	2		1					
		基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2		1					
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2		1					
			データベースシステム	1・2後	2		1					1
			オペレーティングシステム	1・2後	2				1			
			分散システム	2・3後	2				1			
			プログラミング言語処理系	2・3後	2							1
		理論系	信号情報処理	3・4前	2		1	1				
			数値解析	3・4後	2				1			
			アルゴリズム論	3・4後	2		1					
			グラフ理論	3・4前	2				1			1
			論理設計	3・4前	2			1				
			計算理論	3・4後	2		1					
			情報符号理論	3・4後	2		1					
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	3	3	0	0	1	
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1					
			IoT	1・2後	2			1				
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1					
			メディア情報学	1・2後	2			1				1
		基盤系	ゲーム情報学	1・2後	2				1			
			情報システム	2・3後	2		1					
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1					
理論系		機械学習システム	2・3前	2		1						
		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1		1				
		画像情報処理	3・4前	2		1						
		音情報処理	3・4後	2			1					
自然言語処理		3・4後	2		1							
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	1		
合計(118科目)			—	34	189	0	7	6	4	0	0	34
卒業要件及び履修方法												
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

--

【令和元年度】

--

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"><li>・教育効果の向上を図るため、「文化人類学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更</li><li>・教育内容の充実のため、「社会保障論」を兼任教員によるオムニバスから単独での兼任教員の担当に変更のため、「社会保障論」の兼任・兼任教員数を「2」から「1」に変更</li><li>・申請書に記載の通り、令和3年度着任予定教授が、令和2年度は兼任教員として「IT実習Ⅰ」を担当するため、「IT実習Ⅰ」の教授数を「3」から「2」に変更</li><li>・申請書に記載の通り、令和3年度着任予定教授が、令和2年度は兼任教員として「地域情報PBL入門」を担当するため、「地域情報PBL入門」の教授数を「7」から「6」に変更</li></ul>
---

【令和3年度】

<ul style="list-style-type: none"><li>・受講者数に合わせて、「多変量解析」の教授数を「1」から「なし」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「地域ベンチャー育成論」の配当年次を「2後」から「2前」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「地域産業論」の配当年次を「2前」から「2後」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「情報リテラシー」の配当年次を「1後」から「1前」に変更</li><li>・申請書に記載の通り、令和3年度に教授1名が着任したため、「IT実習Ⅰ」の教授数を「2」から「3」に変更し、兼任教員を「1」から「なし」に変更</li><li>・申請書に記載の通り、令和3年度に教授1名が着任したため、「地域情報PBL入門」の教授数を「6」から「7」に変更し、兼任教員を「1」から「なし」に変更</li><li>・受講者数に合わせて、「データ解析ツール」の准教授数を「1」から「なし」に変更</li><li>・受講者数に合わせて、「基礎データ解析」の教授数を「1」から「なし」に変更</li><li>・受講者数に合わせて、「オペレーティングシステム」の兼任教員数を「1」から「なし」に変更</li><li>・受講者数に合わせて、「メディア情報学」の兼任教員数を「1」から「なし」に変更</li></ul>
--

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none"><li>・担当教員の変更により、「EnglishⅢ」、「EnglishⅣ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「異文化コミュニケーション」の配当年次を「1後」から「1前」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「法学概論」の兼任・兼任を「1」から「なし」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「日本国憲法」の配当年次を「1前」から「1後」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「民法」の配当年次を「2前」から「2後」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「商法」の兼任・兼任を「1」から「なし」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「体育実技Ⅱ」の兼任・兼任を「1」から「なし」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「地域福祉論」の配当年次を「3後」から「3前」に変更し、受講者数に合わせて、「地域福祉論」の兼任・兼任を「2」から「1」に変更</li><li>・昇任人事により、「データサイエンス入門」の専任教員等の配置の教授数を「なし」から「1」に変更し、准教授を「1」から「なし」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「IT産業論」の兼任・兼任を「1」から「なし」に変更</li><li>・昇任人事により、「IT実習Ⅱ」の専任教員等の配置の教授数を「なし」から「1」に変更し、准教授数を「3」から「2」に変更</li><li>・昇任人事により、「地域情報PBL入門」、「地域情報PBL基礎」、「地域情報PBL」、「地域情報プロジェクト」の専任教員等の配置の教授数を「7」から「8」に変更し、准教授数を「6」から「5」に変更</li><li>・昇任人事により、「統計的モデルを用いたシミュレーション」の専任教員等の配置の教授数を「なし」から「1」に変更し、准教授数を「1」から「なし」に変更</li><li>・昇任人事により、「統計解析」の専任教員等の配置の教授数を「なし」から「1」に変更し、准教授数を「1」から「なし」に変更</li><li>・昇任人事により、「統計データモデリング」の専任教員等の配置の教授数を「なし」から「1」に変更し、准教授数を「1」から「なし」に変更</li><li>・申請時の間違いのため、「専門教育科目-専門科目群-ICTトラックの小計(16科目)の専任教員等の配置の准教授数を「3」から「2」へ変更</li></ul>
--

【令和5年度】

<ul style="list-style-type: none"><li>・教育効果の向上を図るため、「異文化コミュニケーション」の配当年次を「1前」から「1後」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「法学概論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「日本国憲法」の配当年次を「1後」から「1前」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「商法」の兼任・兼任を「なし」から「1」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「人権論」の配当年次を「1前」から「1後」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「健康学」の配当年次を「2前」から「2後」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「環境学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「環境学」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「体育実技Ⅱ」の兼任・兼任を「なし」から「1」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「地域防災論」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更</li><li>・担当教員の都合により、「IT産業論」の兼任・兼任を「なし」から「1」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「統計的モデルを用いたシミュレーション」の配当年次を「2・3前」から「2・3後」に変更</li><li>・教育効果の向上を図るため、「統計解析」の配当年次を「3・4後」から「3・4前」に変更</li></ul>
---

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	101 科目	0 科目	118 科目	17 科目 [ 0 ]	101 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	118 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{118} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考			
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	21,006.35㎡	— ㎡	— ㎡	21,006.35㎡				
	運動場用地	8,764.78㎡	— ㎡	— ㎡	8,764.78㎡				
	小計	29,771.13㎡	— ㎡	— ㎡	29,771.13㎡				
	その他	— ㎡	— ㎡	— ㎡	— ㎡				
	合計	29,771.13㎡	— ㎡	— ㎡	29,771.13㎡				
(2) 校舎	専用	13,395.53㎡ 13,476.83㎡ 14,111.39㎡	共用 — ㎡	共用する他の学校等の専用 — ㎡	計 13,395.53㎡ 13,476.83㎡ 14,111.39㎡	老朽化した建物を除却したため（建築等設置計画変更は提出済）(5) 老朽化した建物を除却したため（建築等設置計画変更は提出済）(3) 設置認可申請書の記載に誤りがあったため令和3年度の設置計画履行状況報告書にて修正(3)			
		( 13,395.53㎡ ) ( <del>13,476.83㎡</del> ) ( <del>14,111.39㎡</del> )	( — ㎡ )	( — ㎡ )	( 13,395.53㎡ ) ( <del>13,476.83㎡</del> ) ( <del>14,111.39㎡</del> )				
(3) 教室等	講義室	10室	演習室 34室 16室	実験実習室 5室 4室	情報処理学習施設 5室 (補助職員 一人)	語学学習施設 0室 (補助職員 一人)			
	大学全体								
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室数		施設改修工事による増室(5) 設置認可申請書の記載に誤りがあったため令和3年度の設置計画履行状況報告書にて修正(3)			
	情報学部 情報学科			21 18 48 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	情報学部情報学科	100,000 [3,955] 91,727 [2,693] 87,771 [2,570] 83,139 [2,539] 80,064 [2,474] (78,604 [3,095])	1,339 [44] (1,098 [38]) (1,096 [38]) (1,091 [38]) (1,070 [38]) (1,053 [35])	6 [3] ( 6 [2] ) ( <del>5 [2]</del> ) ( 5 [2] ) ( 1 [0] )	1,666 (1,648) (1,642) (1,623) (1,616)	0 (0)	0 (0)		
	計	100,000 [3,955] 91,727 [2,693] 87,771 [2,570] 83,139 [2,539] 80,064 [2,474] (78,604 [3,095])	1,339 [44] (1,098 [38]) (1,096 [38]) (1,091 [38]) (1,070 [38]) (1,053 [35])	6 [3] ( 6 [2] ) ( <del>5 [2]</del> ) ( 5 [2] ) ( 1 [0] )	1,666 (1,648) (1,642) (1,623) (1,616)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	㎡								
(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	㎡								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には、電子ジャーナル、データベース経費を含む。
		教員1人当り研究費等	1,000千円	1,000千円	図書購入費	13,830千円 15,530千円	10,830千円	4,300千円	
	共同研究費等	2,500千円	2,500千円	設備購入費	136,620千円 50,000千円	10,000千円	10,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		576千円	576千円	576千円	576千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金、寄付金、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	福知山公立大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
地域経営学部	年	人	年次 人	人	-	倍	倍	倍	倍	年度	年度	-						
地域経営学科	4	100	3年次 7	414	-	1.03	1.03	1.06	1.06	平成12	平成12	京都府福知山市字堀3370						
医療福祉経営学科	4	75	3年次 5	310	学士 (地域経営学)	1.03	1.03	1.08	1.08	平成12	平成12	同上						
	4	25	3年次 2	104	学士 (地域経営学)	1.04	1.04	0.99	0.99	平成12	平成12	同上						
情報学部	4	100	3年次 2	404	-	1.05	1.05	1.02	1.02	令和4	令和2	-						
情報学科	4	100	3年次 2	404	学士 (情報学)	1.05	1.05	1.02	1.02	令和4	令和2	京都府福知山市字堀3370	編入学定員(2)					
大学全体	4	200	3年次 9	818	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。  
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
  - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
  - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
  - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。





専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専任	講師	前田 一貴 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 線形計画法 IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 数値解析	専任	講師	前田 一貴 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 線形計画法 IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 数値解析	専任	講師	前田 一貴 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 線形計画法 IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 数値解析	専任	講師	前田 一貴 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 線形計画法 IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 数値解析
兼任	教授	山田 篤 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	オペレーティングシステム プログラミング言語処理系 グラフ理論 メディア情報学	兼任	教授	山田 篤 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	オペレーティングシステム プログラミング言語処理系 グラフ理論 メディア情報学	兼任	教授	山田 篤 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	プログラミング言語処理系 グラフ理論	兼任	教授	山田 篤 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	プログラミング言語処理系 地域防災論
												兼任	教授	水口 学 ＜令和5年4月＞	地域防災論
兼任	教授	谷口 知弘 ＜令和2年4月＞ 工学修士	地域資源論	兼任	教授	谷口 知弘 ＜令和2年4月＞ 工学修士	地域資源論	兼任	教授	谷口 知弘 ＜令和2年4月＞ 工学修士	地域資源論	兼任	教授	谷口 知弘 ＜令和2年4月＞ 工学修士	地域資源論
兼任	教授	渋谷 節子 ＜令和2年4月＞ Ph.D (Anthropology) (米国ハーバード大学)	EnglishⅢ EnglishⅣ 異文化コミュニケーション 文化人類学	兼任	教授	渋谷 節子 ＜令和2年4月＞ Ph.D (Anthropology) (米国ハーバード大学)	EnglishⅢ EnglishⅣ 異文化コミュニケーション 文化人類学	兼任	教授	渋谷 節子 ＜令和2年4月＞ Ph.D (Anthropology) (米国ハーバード大学)	異文化コミュニケーション 文化人類学	兼任	教授	渋谷 節子 ＜令和2年4月＞ Ph.D (Anthropology) (米国ハーバード大学)	文化人類学 異文化コミュニケーション
								兼任	准教授	Anthony Walsh ＜令和3年4月＞ Master of Education (University of Southern Queensland)	EnglishⅠ EnglishⅡ TOEICⅠ TOEICⅡ	兼任	准教授	Anthony Walsh ＜令和3年4月＞ Master of Education (University of Southern Queensland)	EnglishⅠ EnglishⅡ EnglishⅢ EnglishⅣ 異文化コミュニケーション TOEICⅠ TOEICⅡ
兼任	教授	神谷 達夫 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	経営情報システム論	兼任	教授	神谷 達夫 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	経営情報システム論	兼任	教授	神谷 達夫 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	経営情報システム論	兼任	教授	神谷 達夫 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	経営情報システム論
兼任	教授	中尾 誠二 ＜令和2年4月＞ 博士(農学)	環境学 観光総論 持続可能な社会論	兼任	教授	中尾 誠二 ＜令和2年4月＞ 博士(農学)	観光総論 持続可能な社会論	兼任	教授	中尾 誠二 ＜令和2年4月＞ 博士(農学)	観光総論	兼任	教授	中尾 誠二 ＜令和2年4月＞ 博士(農学)	観光総論 環境学
				兼任	教授	倉田 良樹 ＜令和2年4月＞ 博士(社会学)	環境学 哲学 持続可能な社会論	兼任	教授	倉田 良樹 ＜令和2年4月＞ 博士(社会学)	環境学 哲学 持続可能な社会論	兼任	教授	倉田 良樹 ＜令和2年4月＞ 博士(社会学)	持続可能な社会論
												兼任	准教授	大門 大朗 ＜令和5年4月＞ 博士(人間科学)	持続可能な社会論 地域防災論
												兼任	講師	川添 信介 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)	哲学
兼任	教授	鄭 年皓 ＜令和2年4月＞ 博士(商学)	データマーケティング	兼任	教授	鄭 年皓 ＜令和2年4月＞ 博士(商学)	データマーケティング	兼任	教授	鄭 年皓 ＜令和2年4月＞ 博士(商学)	データマーケティング	兼任	教授	鄭 年皓 ＜令和2年4月＞ 博士(商学)	データマーケティング
兼任	准教授	佐藤 恵 ＜令和2年4月＞ 修士(経営学)	論理学	兼任	准教授	佐藤 恵 ＜令和2年4月＞ 修士(経営学)	論理学	兼任	准教授	佐藤 恵 ＜令和2年4月＞ 修士(経営学)	論理学	兼任	准教授	佐藤 恵 ＜令和2年4月＞ 修士(経営学)	論理学
兼任	准教授	星 雅文 ＜令和2年4月＞ 修士(保健学)	地域福祉論※ 社会保障論※	兼任	准教授	星 雅文 ＜令和2年4月＞ 修士(保健学)	地域福祉論※	兼任	准教授	星 雅文 ＜令和2年4月＞ 修士(保健学)	地域福祉論※	兼任	准教授	星 雅文 ＜令和2年4月＞ 修士(保健学)	地域福祉論※
				兼任	教授	川島 典子 ＜令和2年4月＞ 博士(政策科学)	社会保障論 社会福祉論 地域福祉論	兼任	教授	川島 典子 ＜令和2年4月＞ 博士(政策科学)	社会保障論 社会福祉論 地域福祉論	兼任	教授	川島 典子 ＜令和2年4月＞ 博士(政策科学)	社会保障論 社会福祉論 地域福祉論
兼任	准教授	加藤 好雄 ＜令和2年4月＞ 博士(経営学)	経営学入門	兼任	准教授	加藤 好雄 ＜令和2年4月＞ 博士(経営学)	経営学入門	兼任	准教授	加藤 好雄 ＜令和2年4月＞ 博士(経営学)	経営学入門	兼任	准教授	加藤 好雄 ＜令和2年4月＞ 博士(経営学)	経営学入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	三好 ゆう <令和2年4月> 博士(経済学)	社会保障論※
兼任	准教授	大谷 杏 <令和2年4月> 博士(教育学)	English I English II 多文化共生論 国際関係論
兼任	准教授	杉岡 秀紀 <令和2年4月> 修士(政策科学)	行政学入門
兼任	助教	佐藤 充 <令和2年4月> 修士(政策科学)	地域産業論 社会調査論
兼任	助教	江上 直樹 <令和2年4月> 修士(教育学)	教育学
兼任	助教	張 明軍 <令和2年4月> 経営修士	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼任	講師	平野 真 <令和3年9月> 博士(学術) 博士(工学)	地域ベンチャー育成論
兼任	講師	水間 みどり <令和3年4月> 社会学修士 教育学修士	心理学
兼任	講師	芦田 信之 <令和2年4月> 博士(医学)	生物学 健康学
兼任	講師	横山 泰昭 <令和3年9月> 経済学士	地域防災論
兼任	講師	長谷川 順子 <令和3年4月> 修士(文学)	English III English IV
兼任	講師	西村 正芳 <令和2年4月> 経済学修士	歴史学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	大谷 杏 <令和2年4月> 博士(教育学)	多文化共生論 国際関係論
兼任	教授	藤島 光雄 <令和2年4月> 博士(法学)	行政学入門
兼任	助教	佐藤 充 <令和2年4月> 修士(政策科学)	地域産業論 社会調査論
兼任	助教	江上 直樹 <令和2年4月> 修士(教育学)	教育学
兼任	助教	張 明軍 <令和2年4月> 経営修士	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼任	講師	劉 玉萍 <令和2年4月>	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	平野 真 <令和3年9月> 博士(学術) 博士(工学)	地域ベンチャー育成論
兼任	講師	水間 みどり <令和3年4月> 社会学修士 教育学修士	心理学
兼任	講師	芦田 信之 <令和2年4月> 博士(医学)	生物学 健康学
兼任	講師	横山 泰昭 <令和3年9月> 経済学士	地域防災論
兼任	講師	長谷川 順子 <令和3年4月> 修士(文学)	English III English IV
兼任	講師	西村 正芳 <令和2年4月> 経済学修士	歴史学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	大谷 杏 <令和2年4月> 博士(教育学)	English I English II 多文化共生論 国際関係論
兼任	教授	藤島 光雄 <令和2年4月> 博士(法学)	行政学入門
兼任	助教	佐藤 充 <令和2年4月> 修士(政策科学)	地域産業論 社会調査論
兼任	講師	江上 直樹 <令和2年4月> 修士(教育学)	教育学
兼任	助教	張 明軍 <令和2年4月> 経営修士	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼任	講師	劉 玉萍 <令和2年4月>	中国語 I 中国語 II
兼任	教授	亀井 省吾 <令和3年4月> 博士(学術)	地域ベンチャー育成論
兼任	講師	伊藤 直美 <令和3年4月> 博士(学術)	心理学
兼任	講師	芦田 信之 <令和2年4月> 博士(医学)	生物学 健康学
兼任	講師	横山 泰昭 <令和3年9月> 経済学士	地域防災論
兼任	講師	塩見 和広 <令和3年4月> 修士(英語教育学)	English III English IV
兼任	講師	西村 正芳 <令和2年4月> 経済学修士	歴史学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	大谷 杏 <令和2年4月> 博士(教育学)	English I English II 多文化共生論 国際関係論
兼任	教授	藤島 光雄 <令和2年4月> 博士(法学)	行政学入門
兼任	准教授	佐藤 充 <令和2年4月> 修士(政策科学)	地域産業論 社会調査論
兼任	准教授	福島 真治 <令和4年4月> 修士(教育学)	教育学
兼任	助教	張 明軍 <令和2年4月> 経営修士	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼任	講師	劉 玉萍 <令和2年4月>	中国語 I 中国語 II
兼任	教授	亀井 省吾 <令和3年4月> 博士(学術)	地域ベンチャー育成論
兼任	講師	伊藤 直美 <令和3年4月> 博士(学術)	心理学
兼任	講師	芦田 信之 <令和2年4月> 博士(医学)	生物学 健康学 環境学
兼任	講師	塩見 和広 <令和3年4月> 修士(英語教育学)	English III English IV

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	大谷 杏 <令和2年4月> 博士(教育学)	English I English II 多文化共生論 国際関係論
兼任	教授	木村 昭興 <令和5年4月> 博士(先端マネジメント)	行政学入門
兼任	助教	佐藤 充 <令和2年4月> 修士(政策科学)	地域産業論 社会調査論
兼任	准教授	福島 真治 <令和4年4月> 修士(教育学)	教育学
兼任	助教	張 明軍 <令和2年4月> 経営修士	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼任	講師	劉 玉萍 <令和2年4月>	中国語 I 中国語 II
兼任	教授	亀井 省吾 <令和3年4月> 博士(学術)	地域ベンチャー育成論
兼任	講師	伊藤 直美 <令和3年4月> 博士(学術)	心理学
兼任	講師	芦田 信之 <令和2年4月> 博士(医学)	生物学 健康学 環境学
兼任	講師	塩見 和広 <令和3年4月> 修士(英語教育学)	English III English IV

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	川井 千枝 ＜令和2年4月＞ 学士(体育)
		体育実技 I 体育実技 II
兼任	講師	八瀬 正雄 ＜令和2年4月＞ 短期大学士
		地域文化論
兼任	講師	岡本 匡弘 ＜令和3年4月＞ 修士(社会学)
		地域福祉論※ 社会福祉論
兼任	講師	松本 学博 ＜令和2年9月＞ 学士(文学)
		地理学
兼任	講師	狭間 芳樹 (50) ＜令和2年9月＞ 博士(文学)
		哲学
兼任	講師	勝久 晴夫 ＜令和4年4月＞ 修士(法学)
		IT産業論 知的財産論
兼任	講師	ミューリ真貴子 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)
		English I English II TOEIC I TOEIC II
兼任	講師	妻木 進吾 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 ＜令和2年9月＞ 生活科学士
		栄養学
兼任	講師	櫻澤 隆哉 ＜令和2年4月＞ 修士(法学)
		法学概論 日本国憲法 民法 商法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	川井 千枝 ＜令和2年4月＞ 学士(体育)
		体育実技 I 体育実技 II
兼任	講師	八瀬 正雄 ＜令和2年4月＞ 短期大学士
		地域文化論
兼任	講師	岡本 匡弘 ＜令和3年4月＞ 修士(社会学)
		地域福祉論※ 社会福祉論
兼任	講師	松本 学博 ＜令和2年9月＞ 学士(文学)
		地理学
兼任	講師	勝久 晴夫 ＜令和4年4月＞ 修士(法学)
		IT産業論 知的財産論
兼任	講師	ミューリ真貴子 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)
		English I English II TOEIC I TOEIC II
兼任	講師	妻木 進吾 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 ＜令和2年9月＞ 生活科学士
		栄養学
兼任	講師	櫻澤 隆哉 ＜令和2年4月＞ 修士(法学)
		法学概論 日本国憲法 民法 商法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	川井 千枝 ＜令和2年4月＞ 学士(体育)
		体育実技 I 体育実技 II
兼任	講師	八瀬 正雄 ＜令和2年4月＞ 短期大学士
		地域文化論
兼任	講師	岡本 匡弘 ＜令和3年4月＞ 修士(社会学)
		地域福祉論※
兼任	講師	松本 学博 ＜令和2年9月＞ 学士(文学)
		地理学
兼任	講師	勝久 晴夫 ＜令和4年4月＞ 修士(法学)
		IT産業論 知的財産論
兼任	講師	ミューリ真貴子 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)
		English III English IV
兼任	講師	妻木 進吾 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 ＜令和2年9月＞ 生活科学士
		栄養学
兼任	講師	櫻澤 隆哉 ＜令和2年4月＞ 修士(法学)
		法学概論 日本国憲法 民法 商法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小山 元孝 ＜令和4年4月＞ 修士(学術)
		歴史学 地域文化論
兼任	講師	川井 千枝 ＜令和2年4月＞ 学士(体育)
		体育実技 I 体育実技 II
兼任	講師	松本 学博 ＜令和2年9月＞ 学士(文学)
		地理学
兼任	講師	勝久 晴夫 ＜令和4年4月＞ 修士(法学)
		IT産業論
兼任	講師	ミューリ真貴子 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)
		English III English IV
兼任	講師	妻木 進吾 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 ＜令和2年9月＞ 生活科学士
		栄養学
兼任	講師	櫻澤 隆哉 ＜令和2年4月＞ 修士(法学)
		法学概論 日本国憲法 民法 商法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小山 元孝 ＜令和4年4月＞ 修士(学術)
		歴史学 地域文化論
兼任	講師	川井 千枝 ＜令和2年4月＞ 学士(体育)
		体育実技 I 体育実技 II
兼任	講師	松本 学博 ＜令和2年9月＞ 学士(文学)
		地理学
兼任	講師	柴田 怜 ＜令和5年4月＞ 博士(経済学)
		IT産業論
兼任	講師	高田 恭子 ＜令和4年4月＞ 修士(法学)
		知的財産論
兼任	講師	ミューリ真貴子 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)
		English III English IV
兼任	講師	申 英姫 ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		English III English IV
兼任	講師	中川 理季 ＜令和5年4月＞ 博士(社会学)
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 ＜令和2年9月＞ 生活科学士
		栄養学
兼任	講師	早瀬 勝明 ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		法学概論 日本国憲法
兼任	講師	松村 幸四郎 ＜令和5年4月＞ 修士(法学)
		民法 商法



(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・教育的効果を考慮し、大谷杏兼担准教授の担当授業科目「English I」「English II」を渋谷節子兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、中尾誠二兼担教授の担当授業科目「環境学」「持続可能な社会論」を倉田良樹兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、狭間芳樹兼任講師の担当授業科目「哲学」を倉田良樹兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、星雅丈兼担教授と三好ゆう兼担准教授のオムニバス担当による「社会保障論」を川島典子兼担教授による単独担当へ変更
- ・教育的効果を考慮し、杉岡秀紀兼担准教授の担当授業科目「行政学入門」を藤島光雄兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、「中国語 I」「中国語 II」の担当教員に劉玉萍兼任講師追加

【令和3年度】

- ・受講者数に合わせて、池野英利専任教授の担当授業科目「多変量解析」「基礎データ解析」を削除
- ・受講者数に合わせて、崔童殷専任准教授の担当授業科目「データ解析ツール」を削除
- ・受講者数に合わせて、山田篤兼担教授の担当科目「オペレーティングシステム」「メディア情報学」を削除
- ・教員の負担軽減のため、渋谷節子兼担教授の担当授業科目「English I」「English II」「English III」「English IV」を削除
- ・教育内容充実のため、「English I」「English II」「TOEIC I」「TOEIC II」の担当教員にAnthony Walsh兼担准教授を追加
- ・教育的効果を考慮し、中尾誠二兼担教授の担当授業科目「持続可能な社会論」を倉田良樹兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、岡本匡弘兼任講師の担当授業科目「社会福祉論」を川島典子兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、「English I」「English II」の担当教員に大谷杏兼担准教授を追加
- ・他大学転出のため、江上直樹兼担助教から兼任講師に変更
- ・教育内容充実のため、平野真兼任講師の担当授業科目「地域ベンチャー育成論」を亀井省吾兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、水間みどり兼任講師の担当授業科目「心理学」を伊藤直美兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、長谷川順子兼任講師の担当授業科目「English III」「English IV」を塩見和広兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、ミュウリ真貴子兼任講師の担当科目を「English I」から「English III」、「English II」から「English IV」に変更、「TOEIC I」「TOEIC II」を削除
- ・受講者数に合わせて、徐璐兼任講師の担当授業科目「中国語 I」「中国語 II」を削除

【令和4年度】

- ・昇任人事により、畠中利治の職名を「准教授」から「教授」に変更（令和4年2月教員審査済）
- ・受講者数に合わせて、山田篤兼担教授の担当科目「グラフ理論」を削除
- ・教育的効果を考慮し、「English III」、「English IV」の担当教員にAnthony Walsh兼担准教授を追加
- ・教育的効果を考慮し、渋谷節子兼担教授の授業科目「異文化コミュニケーション」をAnthony Walsh兼担准教授に変更
- ・教育的効果を考慮し、倉田良樹兼担教授の授業科目「環境学」を中尾誠二兼担教授及び芦田兼任講師に変更
- ・教育的効果を考慮し、倉田良樹兼担教授の授業科目「哲学」を川添信介兼任講師に変更
- ・教育的効果を考慮し、星雅丈兼担准教授の授業科目「地域福祉論」を川島典子兼担教授に変更
- ・昇任人事により、佐藤充の職名を「助教」から「准教授」に変更
- ・教員の都合により、江上直樹兼任講師の授業科目「教育学」を福島真治兼担准教授に変更
- ・昇任人事により、張明軍の職名を「助教」から「准教授」に変更
- ・教員の都合により、西村正芳兼任講師の授業科目「歴史学」及び八瀬正雄兼任講師の授業科目「地域文化論」を小山元孝兼担教授に変更
- ・教員の都合により、勝久晴夫兼任講師の授業科目「知的財産論」を高田恭子兼任講師に変更
- ・「地域防災論」担当の横山泰昭兼任講師の死亡により、担当者を山田篤兼担教授に変更

【令和5年度】

- ・教育的効果を考慮し、Anthony Walsh兼担准教授の授業科目「異文化コミュニケーション」を渋谷節子兼担教授に変更
- ・教育的効果を考慮し、倉田良樹兼担教授の授業科目「持続可能な社会論」を大門大朗兼担准教授に変更
- ・教育的効果を考慮し、山田篤兼担教授の授業科目「地域防災論」を水口学兼担教授及び大門大朗兼担准教授に変更
- ・教員の都合により、藤島光雄兼担教授の授業科目「行政学入門」を木村昭興兼担教授に変更
- ・教育的効果を考慮し、中尾誠二兼担教授の授業科目「環境学」に芦田信之兼任講師を追加
- ・教員の都合により、勝久晴夫兼任講師の授業科目「IT産業論」を柴田怜兼任講師に変更
- ・教員の都合により、ミュウリ真貴子兼任講師の授業科目「English III」「English IV」を申英姫兼任講師に変更
- ・教員の都合により、妻木進吾兼任講師の授業科目「人権論」を中川理季兼任講師に変更
- ・教員の都合により、櫻澤隆哉兼任講師の授業科目「法学概論」「日本国憲法」を早瀬勝明兼任講師に変更
- ・教員の都合により、櫻澤隆哉兼任講師の授業科目「民法」「商法」を松村幸四郎兼任講師に変更

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等関係課程実施基本組織（学科関係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「関係協力学部等（関係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を関係協力学部等（関係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
15 名	8 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。  
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
8	6	4	0	18	0	9	5	4	0	18	0
(7)	(6)	(4)	(0)	(17)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
9	5	4	0	18	0	9	5	4	0	18	0
[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
68 歳	2 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{18} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{18} = \boxed{11.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
合計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由**で辞任した**全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）		
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で**赤字**で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	「メディア情報学」について、実践系科目として実社会に根ざした事例学修を更に充実して実施すること。	【認可】 遵守事項 別紙の通り、授業計画に体験ワークやメディアコンテンツの事例学習、コミュニケーションゲームの実践といった要素を加え、実践系科目として充実した内容となるよう、シラバスを改訂した。このシラバスに基づいて初年度（令和2年度）の授業を実施済みである。 (4) (5)	履行済 「学生による授業評価アンケート」の結果なども踏まえながら、今後も実践的な内容を更に充実させ、より専門的な学びへの動機付けとなるよう努める。(4) (5)
認 可 時 (令和元年)	「情報ネットワーク」について、実践系科目に位置付けるのであれば、実社会に根ざした事例学修を更に充実して実施するか、「基盤系科目」に位置付けること。	【認可】 遵守事項 別紙の通り、授業計画に各回の内容に応じた実践演習を加え、実践系科目として充実した内容となるよう、シラバスを改訂した。このシラバスに基づいて初年度（令和2年度）の授業を実施済みである。 (4) (5)	履行済 「学生による授業評価アンケート」の結果なども踏まえながら、今後も実践的な内容を更に充実させ、より専門的な学びへの動機付けとなるよう努める。(4) (5)
認 可 時 (令和元年)	IT実習Ⅰ～Ⅳのシラバスについて、設置の趣旨に示した実習の「テーマや内容」を適切に反映させること。	【認可】 遵守事項 別紙の通り、各科目のシラバスの「到達目標」に反映させた。また「学期開始前のオリエンテーションでより詳細な資料を配布の上説明する」ことを記載し、実習の具体的な内容が学生に十分に伝わるように企図した。学期始めのオリエンテーションにおいて資料を配布のうえ授業計画の詳細を説明し、授業を実施している。(4) (5)	履行済 今後もオリエンテーションの際に学生へ十分な説明を行い、計画通りに実施していく。(4) (5)
認 可 時 (令和元年)	「学生アシスタント」を配置する際には、求めるスキルや役割をあらかじめ明示し、ガイダンスを実施するなど、授業の実施に支障が生じないよう努めること。	【認可】 遵守事項 初年度（令和2年度）の授業実施状況を踏まえ、より充実した指導体制とするため、令和3年度より1年次の実習科目については特に優秀な2年生の学生アシスタントを、給与も支払ったうえで配置することとした。本学部では1年次からPBLのゼミ配属を行い、教員が各学生の能力についてよく把握できているため、採用にあたっては当該科目の単位を修得済みであることに加え、ゼミ指導教員や科目担当教員の推薦を必要とすることとし、これによりアシスタントに必要とされるスキルを担保する。また、採用時には実習担当教員と学生アシスタントで入念な打ち合わせを行い、授業内での役割を明確にすることとしている。これにより、現在までのところは授業の実施に支障は生じていない。令和4年度からは1年次の科目は2、3年生を、2年次の実習科目についても同様に3年生の学生アシスタントを配置し、実習を円滑に運営していく。 (4)  完成年度を迎え、3、4年生を中心とした学生アシスタントの体制が構築され、実習の運営上の支障は生じていない。(5)	履行済 各実習科目にどの学年の学生を配置するのが受講学生・アシスタント学生の双方にとって有益であるか、慎重に検討したうえで制度を運用していく。アシスタントの学生にとっても後輩を教えることで既習事項についてより深く学ぶ効果があると期待している。(4)  来年度には大学院修士課程の設置を計画しており、大学院生によるTAの配置が可能になると見込まれる。(5)
認 可 時 (令和元年)	「学生アシスタント」が確保できない場合は、必要に応じて助手や技術職員などの教育補助者を配置することが望ましい。	【認可】 助言事項 上記の通り、現在のところ必要な数の学生アシスタントが確保できている。教育補助者の雇用・配置についても必要があれば視野に入れる。(4)  完成年度を迎え、3、4年生を中心とした学生アシスタントの体制が構築され、実習の運営上の支障は生じていない。(5)	履行済 左記の通り、必要に応じて検討を進めていく。(4)  来年度には大学院修士課程の設置を計画しており、大学院生によるTAの配置が可能になると見込まれる。(5)

設置計画履行状況 調査結果 (令和2年度)	該当なし			
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年度)	該当なし			
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年度)	該当なし			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
    - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】  
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
    - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】  
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
    - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】  
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<情報学部 情報学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）  
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

本学では全学組織として、FD委員会、SD委員会を合同に設置している。委員長は副学長とし、地域経営学部教員1名、情報学部教員1名で構成されている。

#### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

5月にFD委員会、SD委員会を合同委員会を開催し、今年5年度年度計画に基づき年間の実施計画を設定する。委員会は主に大学の主要ツールであるSlackを通して審議する。必要に応じて対面で開催する予定である。

#### c 委員会の審議事項等

FD委員会の審議事項としては、FD活動の計画立案、FD活動の実施計画の立案、FD活動の評価、FD活動に関する情報の収集と提供を行うことにしている。また、SD委員会の審議事項としては、SD活動の企画立案、SD活動の実施計画の立案、SD活動の評価、SD活動に関する情報の収集と提供としている。

### ② 実施状況

#### a 実施内容

##### 【FD委員会】

- ・研究倫理研修
- ・地域協働教育に係る研修
- ・教員相互の授業参観

##### 【SD委員会】

- ・新入職員研修
- ・人事評価研修
- ・業務研修（契約事務説明、PROG報告、入試制度説明、発達障害と合理的配慮）
- ・ハラスメント研修
- ・個人情報保護研修

#### b 実施方法

対面及びオンラインを活用し実施した。

#### c 開催状況（教員の参加状況含む）

教員の参加率は平均してFD研修84%、SD研修74%であった。当日参加できなかった教員については、後日資料を送付する等のフォローを行った。

#### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員相互の授業参観を実施した。これにより、他の教員の授業を参観することができ、自身の授業の改善、及び質向上につながった。

### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

#### a 実施の有無及び実施時期

前学期は7月、後学期は1月にすべての授業に対して、学生に対する授業評価アンケートを実施している。その中で、アンケート回答者が6名以上の授業科目を担当する専任教員に対しては、リフレクションペーパーの提出を義務付け、受講学生の要望や質問に真摯に答えている。

#### b 教員や学生への公開状況、方法等

前学期は7月、後学期は1月に実施したアンケートを学期中に集計し、授業担当教員に公開している。授業担当教員への公開は、集計結果だけでなく、個別の授業科目の評価結果や自由記述も公開しており、これを基にアンケート回答者が6名以上の授業科目を担当する専任教員に対しては、リフレクションペーパーを提出してもらっています（義務付けまではいってません）。受講学生には、リフレクションペーパーに記載されている「授業を受講した学生へのコメント」を公開しています。このような取り組みにより、授業内容と授業方法の改善と質の向上に努めている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## (3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

福知山公立大学の基本理念は、「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」であり、その理念の下に情報学部は情報学の体系・知識・知見・技術を学び、それらを用いて地域の価値向上や持続可能な社会の形成に寄与し、情報技術を開発・提供・応用・活用する多様な分野で活躍できる人財の育成を目的として開設された。

情報学部の開設後、令和2年度は108人、令和3年度は103人、令和4年度は106人、令和5年度は105人の新入生を受け入れた。学生は初年次からゼミに所属し地域課題に取り組むなど、学部の設置目的に則した教育研究活動を行っている。開設直後は新型コロナウイルスの影響によりオンラインを中心とした授業を実施していたが、令和4年度からは全ての授業を対面形式で実施している。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

自己点検・評価書は、令和5年6月30日に本学ウェブサイトに公表予定です。

###### b 公表方法

・大学ホームページ

##### ③ 認証評価を受ける計画

・令和6年度に一般財団法人大学教育質保証・評価センターで受審することを大学として決定している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

## 福知山公立大学FD委員会規程

### (設置)

第1条 福知山公立大学に、福知山公立大学FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (構成)

第2条 委員会に委員長を置き、教授会の議を経て学長が任命する。

2 委員長は、委員会の会務を掌理する。

3 委員会は、次の各号に掲げる者（以下「委員」という。）をもって構成する。

(1) 委員長

(2) 教員（福知山公立大学学則第8条第1項に定める専任の教授、准教授、講師及び助教をいう。）の中から学長が任命する1人以上の者

(3) 前2号のほか、学長が必要と認める者

4 学長は、前項第2号及び第3号の任命にあたり、あらかじめ教授会の議を経なければならない。

5 委員には、各学部の教員を1人以上含めなければならない。ただし、特別な事情があると学長が認める場合はこの限りでない。

### (任期)

第3条 委員長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 委員長又は委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (所掌事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) FD活動の計画立案に関する事。

(2) FD活動の実施計画の立案に関する事。

(3) FD活動の評価に関する事。

(4) FD活動に関する情報の収集と提供に関する事。

### (会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会に議長を置き、委員長をもって充てる。

3 議長は、委員会を主宰する。

4 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、委員の総数が2人の場合は、委員全員の出席がなければ開くことができないものとする。

5 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (職務代行)

第6条 委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

### (専門委員会)

第7条 委員会に必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、委員会が行う第4条各号に掲げる事項の審議に関し、必要な専門的事項を調査及び審議する。

3 専門委員会に関し必要な事項は、委員長が定める。

### (委員以外の者の出席)

第8条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

2 前項の規定により会議に出席した委員以外の者は、決議に加わる権利を有しない。

### (議事概要)

第9条 会議の議事については、概要を記録し、保存しなければならない。

### (事務)

第10条 委員会の事務は、事務局総務・財務グループにおいて処理する。

### (規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

### 附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

### 附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

### 附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

### 附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

## 福知山公立大学SD委員会規程

(設置)

第1条 福知山公立大学に、福知山公立大学SD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第2条 委員会に委員長を置き、教授会の議を経て学長が任命する。

2 委員長は、委員会の会務を掌理する。

3 委員会は、次の各号に掲げる者（以下「委員」という。）をもって構成する。

(1) 委員長

(2) 教員（福知山公立大学学則第8条第1項に定める専任の教授、准教授、講師及び助教をいう。）の中から学長が任命する1人以上の者

(3) 前2号のほか、学長が必要と認める者

4 学長は、前項第2号及び第3号の任命にあたり、あらかじめ教授会の議を経なければならない。

5 委員には、各学部の教員を1人以上含めなければならない。ただし、特別な事情があると学長が認める場合はこの限りでない。

(任期)

第3条 委員長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 委員長又は委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) SD活動の企画立案に関する事。

(2) SD活動の実施計画の立案に関する事。

(3) SD活動の評価に関する事。

(4) SD活動に関する情報の収集と提供に関する事。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会に議長を置き、委員長をもって充てる。

3 議長は、委員会を主宰する。

4 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、委員の総数が2人の場合は、委員全員の出席がなければ開くことができないものとする。

5 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職務代行)

第6条 委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(専門委員会)

第7条 委員会に必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、委員会が行う第4条各号に掲げる事項の審議に関し、必要な専門的事項を調査及び審議する。

3 専門委員会に関し必要な事項は、委員長が定める。

(委員以外の者の出席)

第8条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

2 前項の規定により会議に出席した委員以外の者は、決議に加わる権利を有しない。

(議事概要)

第9条 会議の議事については、概要を記録し、保存しなければならない。

(事務)

第10条 委員会の事務は、事務局総務・財務グループにおいて処理する。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

講義名	メディア情報学		
代表ナンバリングコード	BI11HS004A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
受講定員の有無	なし		
授業公開	科目等履修・聴講		
履修年次	1・2年次		

担当教員

氏名

◎ 横田 光代

授業概要	メディアとは、情報の記録・保管あるいは伝達のための手段や方法のことである。たとえば情報を記録・保管するためのメディアには磁気ディスクや磁気テープ等がある。情報の伝達のためのメディアとしては、マスメディアやソーシャルメディア等がある。一方、これらのメディアで保管されたり伝達されたりする内容に着目すると、それらの表現手段として、言語、音、画像、映像等が使われており、これらもまたメディアである。本講義ではこれら表現手段としてのメディアに注目し、人間の知覚との関わりの中で、これらの特性や関連技術の概要について学ぶ。
到達目標	(1) 情報を記録・伝達・表現する一連の手段としてのメディアの位置付けを理解する。 (2) メディア技術を通じて、知識や情報がどのように伝達・変遷していくかを理解する。 (3) 映像・音・言語各メディアの生成技術の概要について理解し、説明ができる。

授業計画

回	授業内容
第1回	世の中で、身の回りで、「メディア」になりうるもの。
第2回	心の動きに伴う情報伝達と表現(1) 五感・身体感覚との関わりと活用
第3回	心の動きに伴う情報伝達と表現(2) 言語を介したコミュニケーション
第4回	心の動きに伴う情報伝達と表現(3) 集合体・コミュニティとしての意思形成と共有
第5回	知識や情報の「記録」と「再現」：記録メディアの歴史、計測手法
第6回	知識や情報の「参照」と「応用」：抽象化と具体化、コピーとアレンジ、メディアミックス
第7回	知識や情報の「維持」と「発展」：芸術・文化の歴史、技術の継承、デジタルアーカイブ、DX
第8回	知識や情報の「発見」と「整理」：“無い”を見つける技術
第9回	メディアコンテンツの事例学習(1) 光、画像、映像
第10回	メディアコンテンツの事例学習(2) 音、音楽、効果音
第11回	メディアコンテンツの事例学習(3) 文字、言語、ソーシャルネットワーク
第12回	情報伝達とメディア表現の実践(1) 編成・立案
第13回	情報伝達とメディア表現の実践(2) 企画・設計
第14回	情報伝達とメディア表現の実践(3) 試行・深化

第15回	情報伝達とメディア表現の実践 (4) 発表・合評
準備学習 (予習・復習等) の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 次の授業テーマに関連してどのような事例があるかを調べ、それらに関する疑問点を整理しておく (1時間)。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) わからなかった点や疑問点が解消されたか、確認をする。解決していない点は仲間同士で話し合ったり、オフィスアワーを使って質問をする。授業で取り上げた内容が自分の身の回りでどのように使われているかについて、事例を調べたり考えたりし、それらをノート等に書き出してみる。(1時間)</p>
他科目との関係性	【深化】メディア表現を理解するための人間と計算機との関係性については、2・3年次で学ぶ「ヒューマンインタフェース」で、メディア表現の理論的側面については3・4年次科目である「信号処理」「音情報処理」「画像情報処理」にて学ぶ。
評価方法 (割合)	<p>小課題 (20%) 合評および期末レポート (60%) 授業への積極的参加 (20%)</p> <p>第12~15回は、それまでの内容を踏まえたグループワークが中心となります。</p>
評価基準	
秀	講義で扱った話題に紐づく独自の観察・調査を充実して行い、自分の言葉で説明できる。
優	講義で扱った話題を踏まえた観察・調査を充実して行い、適切な説明ができる。
良	講義で扱った話題をよく理解し、実践ワークに積極的に参加できる。
可	講義で扱った話題の大部分について最低限の説明ができ、実践ワークに参加できる。
不可	講義で扱った話題についての理解が不十分で、かつ実践ワークに参加しない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法	授業時間内の課題については、次回以降の授業の冒頭でポイントや考え方を適宜説明する。 試験 (合評) については発表終了後に全体講評を行う。
テキスト	配付資料による
参考書・参考資料等	適宜授業時間内に提示
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎ 特に関係性が深い、○ 関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
メッセージ	コンピュータを使ったメディアの処理は日常的なものになっています。それらを体系立てて理解するようにしましょう。なお、これらのメディアに関わる技術の詳細や理論的根拠については「画像情報処理」「音情報処理」「自然言語処理」といった理論系専門科目で学びます。
教員との連絡方法	主にSlackか口頭 (研究室) で。履修者には適宜、面談可能な時間帯を掲示します。
担当教員の業務経験	-
備考	※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。

講義名	情報ネットワーク		
代表ナンバリングコード	B1111T002A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
受講定員の有無	なし		
授業公開	科目等履修・聴講		
履修年次	1・2年次		

#### 担当教員

氏名

◎ 衣川 昌宏

#### 授業概要

インターネットに代表される、情報社会を支えるインフラストラクチャ（基盤）技術である情報ネットワークは、人のインタフェースであるコンピュータ端末（スマートフォンやパーソナルコンピュータ）から意識することなく利用できることが当然となっている。しかし、その空気や水と同様に当然のように利用できる裏側には、情報を正しく・高速に・途切れることなく伝える技術である情報ネットワークとそれを支える人たちが存在している。本講義では、情報ネットワークの仕組みを理解すると共に、実際にインターネットを利用するプログラムの開発を通してコンピュータから情報ネットワークを利用するための基礎知識を学習する。

#### 到達目標

情報ネットワークの概要を理解し、情報ネットワークの設計や情報ネットワークをもちいたアプリケーションソフトウェアの設計・活用に必要な考え方に大きな関心を持つようにするため、次の3点を到達目標とする。

1. 情報ネットワークを支える理論・技術を説明できる
2. 情報ネットワークの階層構造とネットワークがデータを伝送する動作を説明できる
3. ネットワークのルーティング、TCP/IPを用いたアプリケーションの動作の仕組みを説明できる

#### 授業計画

回	授業内容
第1回	ガイダンス、コンピュータネットワークの基礎
第2回	インターネット
第3回	実践(1): ネットワーク演習環境の構築
第4回	OSI参照モデルとTCP/IP
第5回	物理層
第6回	データリンク層、実践(2): データリンク層のフレーム観察
第7回	ネットワーク層、実践(3): ネットワーク層のパケット観察
第8回	IPアドレス(1)
第9回	IPアドレス(2)、実践(4): IPネットワークのアドレス設計
第10回	ルーティング(1)
第11回	ルーティング(2)、実践(5): IPネットワークの地図を作る
第12回	トランスポートプロトコル
第13回	ドメイン名とDNS

第14回	実践(6): ネットワークコマンド、各コマンドのパケットの観察
第15回	まとめ
準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 各回で学ぶ教科書の章を読み、講義内容の概要を理解しておくこと。理解できない事柄をノートにまとめておくこと。 教科書を読んだり、関連情報を調べたりしてノートを作成すること。(BYOD端末上のノートアプリケーション、紙のノートどちらでも良い)</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で講じた内容をもう一度読んでおくこと。特に、講義中のメモ等は記憶が新しいうちに教科書やノートへ情報を補足しておくこと。 講義で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりして複数の視点からの理解を深めておくこと。</p> <p>(その他) 自分の身の回りにある情報機器についても、情報ネットワークがどのように役に立っているのか考えてみる。</p>
他科目との関係性	<p>【深化】情報ネットワーク上を流れる情報の理論的側面は3・4年次の「情報符号理論」に譲る。また、ネットワーク上の情報に対する安全性を確保するための技術については、2・3年次の「情報セキュリティ」で学ぶ。 【発展】情報ネットワーク上に構築される多数の計算機からなるシステムについて、2・3年次の「分散システム」で学ぶ。</p>
評価方法(割合)	<p>適宜「理解度試験・演習」を実施(計20%) 期末に試験を実施(80%) 合計100点(100%)</p>
評価基準	
秀	情報ネットワークの詳細を説明でき、簡単なネットワーク設計ができる。
優	具体的な情報ネットワークの動作と構造を自分の言葉で説明できる。
良	情報ネットワークの動作と構造を理解し、インターネットの概要を説明できる。
可	情報ネットワークの基本的な構造と動作を理解し、説明できる。
不可	情報ネットワークの構造や動作を理解していない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	「理解度試験・演習」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業で説明する。
テキスト	<p>【書名】ネットワーク 目には見えないしくみを構成する技術 【著者】井口 信和 【出版社】森北出版 【出版年】2015年 【ISBNコード】978-4627852310</p>
参考書・参考資料等	「ネットワークはなぜつながるのか 第2版」戸根 勲 著(日経BP社)
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	◎
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
メッセージ	普段使用しているアプリケーションソフトウェアはいつ通信しているのでしょうか。その便利さを支える縁の下を力持ち「情報ネットワーク」技術を学んで、インターネットだけでなく多種多様な通信技術を応用できる知識と技術を身につけましょう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	Webサービス設計構築運用、インターネットサーバシステム設計構築運用、メ
	ッセージングネットワーク研究開発
備考	<p>BYOD PCを持参すること。講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、講義に関係の無い携帯電話の操作を慎むこと。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。</p>

講義名	IT実習I		
代表ナンバリングコード	BI11SE0010		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	1年次		

#### 担当教員

氏名

◎ 池野 英利

授業概要	<p>IT実習ではプログラミングや各種ツールの使用等、情報技術に関する実習を行う。</p> <p>本実習では「実世界から情報学へーデータサイエンスの世界ー」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から一つを選択し実施する。IT実習Iでは主にデータサイエンスに関する実習を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの検索やアンケート・計測によるデータ取得を通じ、自身の研究やコンテンツ作成に必要なスキルを獲得する</li> <li>Rなどを用いて基本的な統計データ処理が行え、獲得したデータの分析・加工ができる</li> <li>結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる</li> <li>以上の到達目標に達するために必要な程度にはPC操作に習熟している</li> </ul>

#### 授業計画

回	授業内容
第1回	情報リテラシー実践1：デジタル情報の表現
第2回	情報リテラシー実践2：インターネットからの情報獲得
第3回	情報リテラシー実践3：センサーからの情報獲得
第4回	情報リテラシー実践4：調査による情報獲得と可視化
第5回	情報リテラシー実践5：情報の提示技術
第6回	情報リテラシー実践6：情報分析入門
第7回	Rプログラミング入門(1)
第8回	Rプログラミング入門(2)
第9回	Rプログラミング入門(3)
第10回	箱ひげ図・要約統計量(1)
第11回	箱ひげ図・要約統計量(2)
第12回	相関分析
第13回	線形回帰分析(1)
第14回	線形回帰分析(2)
第15回	カイ二乗検定

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習）          予め実習に向けて指示された準備を行う（実施に必要な時間：30分程度）。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習）          実習内容を振り返り、確認を行う（実施に必要な時間：1時間程度）。</p> <p>（その他）          各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、テーマごとの実習の初回に詳細に説明する。</p>
他科目との関係性	<p>【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、ICTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。</p>
評価方法（割合）	中間評価 (40%) 最終報告 (60%)
評価基準	
秀	与えられた課題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	与えられた課題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	与えられた課題に取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	与えられた課題に取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	与えられた課題への取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	<p>【書名】RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス&amp;機械学習[増補改訂版]          【著者】有賀友紀・大橋俊介          【出版社】技術評論社          【出版年】2021年          【ISBNコード】978-4-297-12022-1</p>
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	◎
メッセージ	コンピュータ、インターネット、ソフトウェアツールの利用に慣れ、情報学部各授業におけるデータ解析に活用できるように勉強してください。
教員との連絡方法	オフィスパワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の業務経歴	-
備考	<p>講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。</p>

講義名	IT実習II		
代表ナンバリングコード	BI11SE0020		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	1年次		

#### 担当教員

氏名

◎ 島中 利治

#### 授業概要

IT実習IIでは、プログラミングやソフトウェアを用い、情報技術に関する実習を行う。  
「ITの世界」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から1つを選択して実施する。IT実習IIでは主に情報通信技術に関する実習を行う。

#### 到達目標

- ・実習に用いるデバイスの仕様、特性を概ね理解し、適切に動作させることができる
- ・課題の解決のためにどのようなシステムやアルゴリズムが必要になるか、数理的・論理的な思考法を用いて議論することができる
- ・デバイスとコンピュータをどのように組み合わせ、どのようなアルゴリズムを実装すれば課題の解決に必要なシステムを構築できるか検討し、実際に設計したシステムやプログラムを作成することができる
- ・作成したシステムやプログラムを適切に制御・動作させ、課題を解決することができる
- ・結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる

#### 授業計画

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	実習内容の理解・準備作業（課題の解決に向けて計画を立てる）
第3回	実習内容の理解・準備作業（計画の実施に向けた準備）
第4回	実習（計画に沿った活動1）
第5回	実習（計画に沿った活動2）
第6回	実習（計画に沿った活動3、進捗によって計画の見直し）
第7回	実習（計画に沿った活動4）
第8回	中間発表の準備
第9回	中間発表
第10回	実習（中間発表の振り返り、それを踏まえて計画の見直し）
第11回	実習（計画に沿った活動5）
第12回	実習（計画に沿った活動6）
第13回	実習（計画に沿った活動7）
第14回	報告会の準備

第15回	報告会 (まとめ)
準備学習 (予習・復習等) の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 予め実習に向けて指示された準備を行う。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 実習内容を振り返り、確認を行う。</p> <p>(その他) 各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、学期開始前のオリエンテーションでより詳細な資料を配布のうえ説明する。 これを参考に自身の興味にあったテーマを一つ選択のうえ、実習に臨むこと。</p>
他科目との関係性	【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、IGTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。
評価方法 (割合)	<p>中間評価 (40%)</p> <p>最終報告 (60%)</p>
評価基準	
秀	与えられた課題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	与えられた課題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	与えられた課題に取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	与えられた課題に取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	与えられた課題への取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料はCMS等を通じて配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	◎
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	◎
メッセージ	プログラミングや各種ツールを使いこなせるようになろう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。テーマの担当教員が指定する連絡手段を用いて連絡すること。
担当教員の実務経歴	-
備考	<p>講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となることがあります。</p>

講義名	IT実習Ⅲ		
代表ナンバリングコード	B112SE0030		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	2年次		

#### 担当教員

氏名

◎ 西田 豊明

#### 授業概要

IT実習ではプログラミングや各種ツールの使用等、情報技術に関する実習を行う。  
 本実習では「メディア情報学-AIの世界-」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から一つを選択し実施する。IT実習Ⅲでは主にAIに関する実習を行う。

#### 到達目標

- ・テキストや音、画像といったデータがコンピュータ上でどのように表現されるか、およびテキストマイニングやフィルタ適用といった処理の仕組みの概要を理解し、プログラミングによって実際に解析やメディア処理ができる
- ・機械学習の仕組みの概要を理解し、特徴抽出や認識・分類などの課題を機械学習を用いて解決できる
- ・上記の機能を有するライブラリを自身のプログラムに組み込み、同様の処理を実行できる
- ・結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる

#### 授業計画

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	実習内容の理解・準備作業（課題の解決に向けて計画を立てる）
第3回	実習内容の理解・準備作業（計画の実施に向けた準備）
第4回	実習（計画に沿った活動1）
第5回	実習（計画に沿った活動2）
第6回	実習（計画に沿った活動3、進捗によって計画の見直し）
第7回	実習（計画に沿った活動4）
第8回	中間発表の準備
第9回	中間発表
第10回	実習（中間発表の振り返り、それを踏まえて計画の見直し）
第11回	実習（計画に沿った活動5）
第12回	実習（計画に沿った活動6）
第13回	実習（計画に沿った活動7）
第14回	報告会の準備
第15回	報告会（まとめ）

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習）          予め実習に向けて指示された準備を行う。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習）          実習内容を振り返り、確認を行う。</p> <p>（その他）          各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、学期開始前のオリエンテーションでより詳細な資料を配布のうえ説明する。          これを参考に自身の興味にあったテーマを一つ選択のうえ、実習に臨むこと。</p>
他科目との関係性	<p>【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、ICTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。</p>
評価方法（割合）	<p>中間評価 (40%)          最終報告 (60%)</p>
評価基準	
秀	与えられた課題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	与えられた課題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	与えられた課題に取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	与えられた課題に取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	与えられた課題への取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
メッセージ	プログラミングや各種ツールを使いこなせるようになろう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経歴	-
備考	<p>講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。</p>

講義名	IT実習Ⅳ		
代表ナンバリングコード	BI12SE0040		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	2年次		

担当教員	
氏名	
◎ 倉本 到	

授業概要	<p>IT実習ではプログラミングや各種ツールの使用等、情報技術に関する実習を行う。</p> <p>本実習では「ヒューマンインタフェース-混合現実の世界-」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から一つを選択し実施する。IT実習Ⅳでは主に混合現実に関する実習を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合現実環境を構築する技術について理解し、その特徴を活かした設計・開発ができる</li> <li>・混合現実に関する課題に対して、チームで取り組むことができる</li> <li>・チームによる開発の実際を理解し、基本的なプロジェクトを設計することができる</li> <li>・結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる</li> </ul>

授業計画	
回	授業内容
第1回	開発環境構築およびUnityコンテンツ作成課題1
第2回	Unityコンテンツ作成課題2
第3回	Unityコンテンツ作成課題3
第4回	VR/ARコンテンツ作成課題1
第5回	VR/ARコンテンツ作成課題2
第6回	VR/ARコンテンツ作成課題3
第7回	VR/ARコンテンツ作成課題4
第8回	VR/ARコンテンツ作成課題5
第9回	VR/ARコンテンツ作成課題6
第10回	VR/ARコンテンツ作成課題7
第11回	VR/ARコンテンツ作成課題8
第12回	VR/ARコンテンツ自由制作1
第13回	VR/ARコンテンツ自由制作2
第14回	VR/ARコンテンツ自由制作3
第15回	VR/ARコンテンツ自由制作のプレゼンテーション

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 予め実習に向けて指示された準備を行う。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 実習内容を振り返り、確認を行う。</p> <p>（その他） 各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、学期開始前のオリエンテーションでより詳細な資料を配布のうえ説明する。 これを参考に自身の興味にあったテーマを一つ選択のうえ、実習に臨むこと。</p>
他科目との関係性	<p>【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、IGTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。</p> <p>【発展】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」で専門的な基本スキルを身につけたあと、「インターン実習Ⅰ」に進み、社会で実践することを勧める。</p>
評価方法（割合）	<p>プレゼンテーション（50%） 報告書（50%）</p>
評価基準	
秀	与えられた課題および自由制作で実施されるプロジェクトで生じる問題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	プロジェクトで生じる問題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	プロジェクトに取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	プロジェクトに取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	プロジェクトへの取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
メッセージ	プログラミングや各種ツールを使いこなせるようになろう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経歴	-
備考	<p>VR/ARコンテンツ作成課題は前半後半に分かれて実施します。クラスの半数がVR、残り半数がARの課題に4週取り組み、前半と後半でそれらを入れ替えます。</p> <p>講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。</p>